

# 播磨の弥生墓

— 円形周溝墓と方形周溝墓 —



## 会期

2015.  
**12.23.(水・祝) —**  
2016.  
**2.21.(日)**

毎週火曜日休館  
年末年始(12.28~1.5)休館

## 開館時間

**10:00 ~ 16:00**  
(入館は15:30まで)

## 記念講演会 (参加無料・会場は有年公民館)

**2016.1.16. 土 13:30~15:00 「有年の弥生墓と播磨」**

講師：岸本一宏氏 (公益社団法人 兵庫県まちづくり技術センター調査課 副課長)

**2016.2.6. 土 13:30~15:00 「弥生墳丘墓の成立・展開と有年の弥生墓」**

講師：大久保徹也氏 (徳島文理大学文学部 教授)

**2016.2.14. 日 13:30~15:00 「近畿弥生墓制と有年の周溝墓」**

講師：若林邦彦氏 (同志社大学歴史資料館 准教授)

■講演会会場は有年公民館 (赤穂市東有年 439 番地 1、TEL 0791-49-2004) となります。

■いずれも定員 100 名 (先着順) となります。

■事前申し込み・参加費は不要です。

■講演会当日は、10:00 より赤穂市立有年考古館において学芸員の展示解説があります。

■ご不明な点は赤穂市立有年考古館までお問い合わせください。

主催：赤穂市立有年考古館・神戸新聞社 後援：サンテレビジョン・ラジオ関西・NHK 神戸放送局



## 赤穂市立有年考古館



〒678-1181 兵庫県赤穂市有年榎原1164番地1

TEL・FAX 0791-49-3488

**入館無料**

■開館時間■ 10時~16時 (入館は15時30分まで)

■休館日■ 火曜日、年末年始(12月28日~1月4日)

※企画展前には準備のため一定期間休館することがあります。

■Webサイト■ 「赤穂市立有年考古館」で検索!

## ～1. はじめに 弥生時代とは～

弥生時代（今から約 2,500 ～ 1,750 年前）の日本列島は、米づくりや鉄器・青銅器などの文化が朝鮮半島から伝わり、文化・習慣、そして社会が大きく変化した時代でした。

その変化の中には「墓」の変化もありました。縄文時代と比べると、弥生時代の「墓」は大小のちがいや手厚さなどにバリエーションがでてきます。このことから、弥生時代には、葬られた人の出身・年齢・身分・地位などによって、どんな形の墓を造るか、どんな棺に納められるかなど、「墓」の造り方について、地域や時期によってこと細かな決まり事があったものと推測されます。

そのため、「墓」を調べることで当時の文化や習慣、その広がりや社会のようすまで知ることができます。この展示では「墓」をキーワードに、播磨地域の弥生時代について考えていきます。



本展の関連遺跡

## ～ 2. 弥生時代のはじまりと「墓」～

ひがしむ こ

### ①東武庫遺跡（尼崎市）

東武庫遺跡は尼崎市武庫元町にある遺跡です。ここから弥生時代前期前半から中期初頭（約 2,500 ～ 2,400 年前）までに造られた大規模な**方形周溝墓群**が見つかりました。**兵庫県内で確認できる最古の周溝墓群**であり、弥生時代が始まったころの墓の様子を伝える重要な遺跡です。方形周溝墓の大きさは一辺が6m前後のものが多いですが、3～14mと幅があります。

方形周溝墓からは、**「擬朝鮮系無文土器」**とよばれる朝鮮半島の土器をまねて日本列島で作られた土器や、**「瀬戸内型甕」**とよばれる瀬戸内地方で多くみられる土器が墓に供えられたと考えられる状態で出土しています。

また、方形周溝墓（1号墓）に使用されていた**木棺木材の伐採された年代が、紀元前 445 年であることが年輪年代測定法で判明した**ことでも非常に有名な遺跡です。



▲発掘された方形周溝墓群（兵庫県立考古博物館提供）  
右図の西半部の空中写真。



▲方形周溝墓群の全体図（兵庫県教委 1995 より）  
時期の異なる 22 基の方形周溝墓が重複しています。



▲ 2号墓

(兵庫県立考古博物館提供)

中央部にある四角い穴は木棺墓の痕跡。



▲ 2号墓「擬朝鮮系無文土器」出土状況

(兵庫県立考古博物館提供)

方形周溝墓の溝の中から完形で出土している。

うにゅちゃんの  
ココがすごい！



東武庫遺跡のすごいところは、方形周溝墓（2号墓）から「**擬朝鮮系無文土器**」が出土していることうにゅ。

方形周溝墓は近畿から東北地方まで広がる弥生時代を代表する墓で、全国で 10,000 基以上も築かれたといわれているうにゅ。方形周溝墓は弥生時代前期に新たに出現する墓なので、米作りや金属器と一緒に朝鮮半島から渡ってきた文化だとする説があるうにゅ。

でも、出現したころの方形周溝墓は大阪府や兵庫県に多くて、朝鮮半島に近い九州地方ではほとんど造られないうにゅ。しかも、方形周溝墓と全く同じ墓は朝鮮半島ではほとんど見つからないうにゅ。なので、方形周溝墓は朝鮮半島から伝わったものではなく、日本列島の弥生人が独自に生み出したとする説もあって、方形周溝墓がどこから来たものなのか、現在でも研究がすすめられているうにゅ。

**東武庫遺跡は方形周溝墓が朝鮮半島とつながりがあるものとする1つの証拠になっていて、とっても重要**うにゅ。なので、**出土遺物は兵庫県指定文化財**になっているうにゅ！

## ～ 2. 弥生時代のはじまりと「墓」～

たまつたなか

### ②玉津田中遺跡（神戸市）

玉津田中遺跡は神戸市玉津にある遺跡で、弥生時代では播磨地域最大の集落遺跡です。弥生時代前期末（約 2,400 年前）から方形周溝墓や土器棺墓が造られており、集落と墓が営まれています。

ここに展示しているのは「**土器棺**」で、棺に転用された土器と考えられています。蓋がかぶせられた完全なかたちの甕が穴の中に据え付けられた状態



で出土しています。

この土器棺は周溝や土盛りを持っておらず、周溝墓ではありません。周溝墓は弥生時代の集落ではよくみられる墓ですが、**すべての人が周溝墓に葬られるわけではありませんでした。**

▲土器棺の出土状況

(兵庫県立考古博物館提供)



うにゅちゃんの  
**解説!**

弥生時代の棺には、木の板を組み合わせた木棺や、板石を組み合わせた石棺などがあるけど、**土器を棺にしたものもある**うにゅ。

見て分かるように、土器は大人の人が入れるほどは大きくないので、土器棺は子ども専用の棺うにゅ。時期や地域によって多少のバラつきはあるけれど、内部に残った骨や歯の分析から、だいたい7歳ぐらいまでの**子どもが土器棺に葬られていた**みたいうにゅ。(大人の体の一部を納めて埋葬していた例なんかもあるけど、例外的うにゅね。)

弥生人の人生では7歳前後が人生の節目だったのかもしれないうにゅね。こんなふうに、発掘調査から弥生時代の人々の社会生活を復元する研究も行われているうにゅよ!

## ～ 3. 円形周溝墓と方形周溝墓～

### ひがしうね おきた ③ 東有年・沖田遺跡（赤穂市）

東有年・沖田遺跡は赤穂市東有年にある遺跡で、縄文時代後期（約 3,500 年前）から続く赤穂市内最大の集落遺跡です。この遺跡からは**播磨地域でも古い段階の円形周溝墓**がみつかっています。

円形周溝墓は弥生時代中期中葉（約 2,200 年前）に造られたもので、直径は 9.5m です。周囲では同時代の遺構があるため、集落のすぐ近くに造られたものと判断されています。棺の痕跡やマウンドは、後世の耕作で完全に削られて無くなっていましたが、周溝から円形周溝墓に供えられたと考えられる土器が出土しています。



▲円形周溝墓の全景

点線の部分は、粘土を採るための穴で壊されています。



#### ▲土器の出土状況

完全なかたちの土器が周溝から出土しています。



うにゅちゃんの  
解説!

東有年・沖田遺跡でみつかった円形周溝墓は、**播磨地域でも古い段階の円形周溝墓**うにゅ。

円形周溝墓は、弥生時代前期に香川県や岡山県の瀬戸内海沿岸部で初めて現れるんだけど、弥生時代前期にはあんまり広がらないうにゅ。

弥生時代中期になると、兵庫や大阪でも少しずつ造られるけど、数はとても少なく、あくまで瀬戸内地方の墓として造られるみたいいうにゅ。

弥生時代の播磨では、方形周溝墓が一般的で、どちらかといえば近畿地方と同じような墓を造っているけど、赤穂市では弥生時代中期の方形周溝墓はみつからないうにゅ。代わりに瀬戸内地方的な円形周溝墓が東有年・沖田遺跡に造られているから、**赤穂市周辺は近畿地方というよりも瀬戸内地方の社会の影響を強く受けている可能性が高い**ということが分かるうにゅ。

### ～ 3. 円形周溝墓と方形周溝墓～

しんぐう みやうち

## ④新宮宮内遺跡（たつの市）

新宮宮内遺跡はたつの市新宮町にある、弥生時代中期中葉から後期初頭（約 2,200 年前から 2,000 年前）の大規模な集落遺跡で、同時代としては西播磨最大です。ここから 7 基からなる方形周溝墓群がみつかりました。

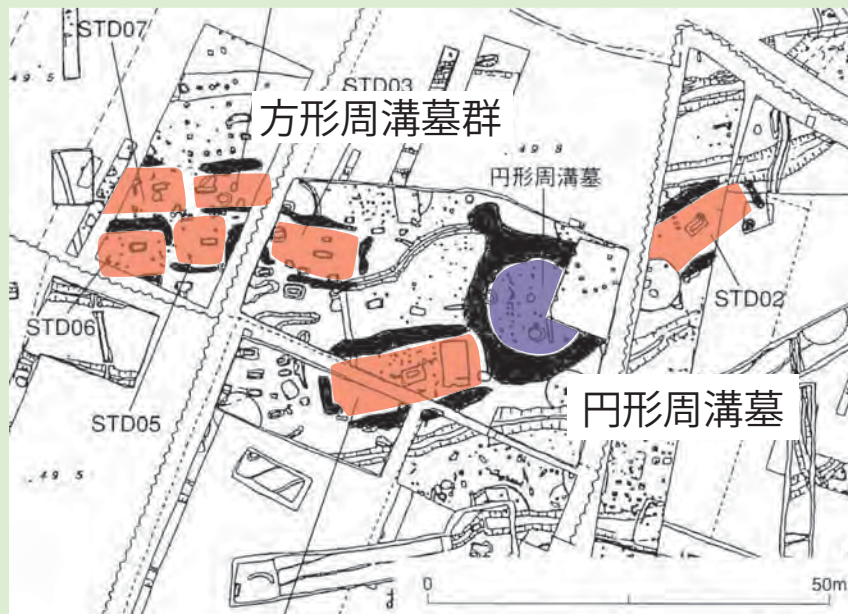
方形周溝墓は弥生時代中期中葉から中期後葉のものが密集するように造られ、近畿地方でみられる一般的な方形周溝墓と同じ特徴を持っています。

周溝からは大量の土器が出土しており、方形周溝墓群に供えられたものと考えられています。



▲周溝の土器出土状況 (たつの市教育委員会提供)

◀ 方形周溝墓群と円形周溝墓 (たつの市教育委員会提供)



▲墳墓群平面図

(新宮町教委 2005 を着色)





(たつの市教育委員会提供)

#### ◀ 円形周溝墓

直径は約 15m で、棺やマウンドは後世に削られて残っていませんでした。



うにゅちゃんの  
**解説!**

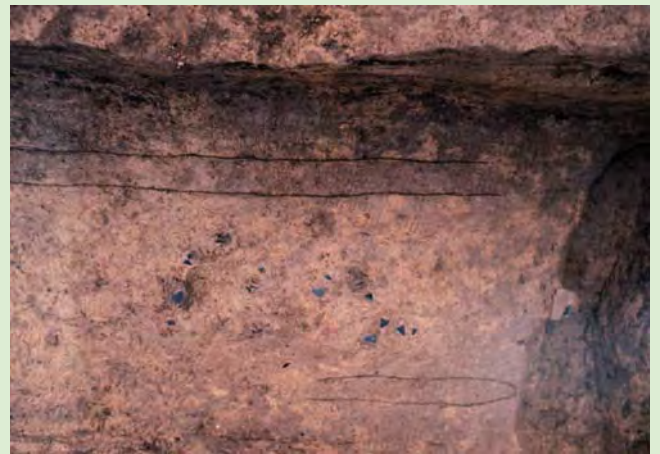
新宮宮内遺跡は赤穂市と同じく西播磨地域のたつの市新宮町だけでなく、**たつの市ぐらまでは近畿地方と同じような方形周溝墓を造る社会**だったみたいいうにゅね。ただし、発掘されたときの写真をみるとわかるけど、新宮宮内遺跡の方形周溝墓群の中には、1つだけ円形周溝墓があるうにゅ。

新宮宮内遺跡の円形周溝墓の時期は意見が分かれていて、弥生時代中期中葉（約 2,200 年前）のものとする意見と、弥生時代後期初頭（約 2,000 年前）のものとする意見があるうにゅ。

もし、円形周溝墓が弥生時代中期中葉のものとするれば、新宮宮内遺跡では方形と円形周溝墓が共存していたといえるうにゅ。西播磨地域だし、瀬戸内の影響も受けていたといえるうにゅ。

一方で、弥生時代後期初頭のものとするると、方形周溝墓群が造られなくなったあとに円形周溝墓が造られたといえるうにゅ。これは近畿地方の影響が弱まって、弥生時代後期には瀬戸内地方の影響が強まったともいえそううにゅ。

いずれにせよ、この円形周溝墓の時期はとても重要うにゅね。今後、研究が進んで明らかになっていくうにゅ！



(たつの市教育委員会提供)

◀ 石鏃の出土した木棺墓

棺内部から大量の石鏃が出土しています。

うにゅちゃんの  
解説!



(たつの市教育委員会提供)

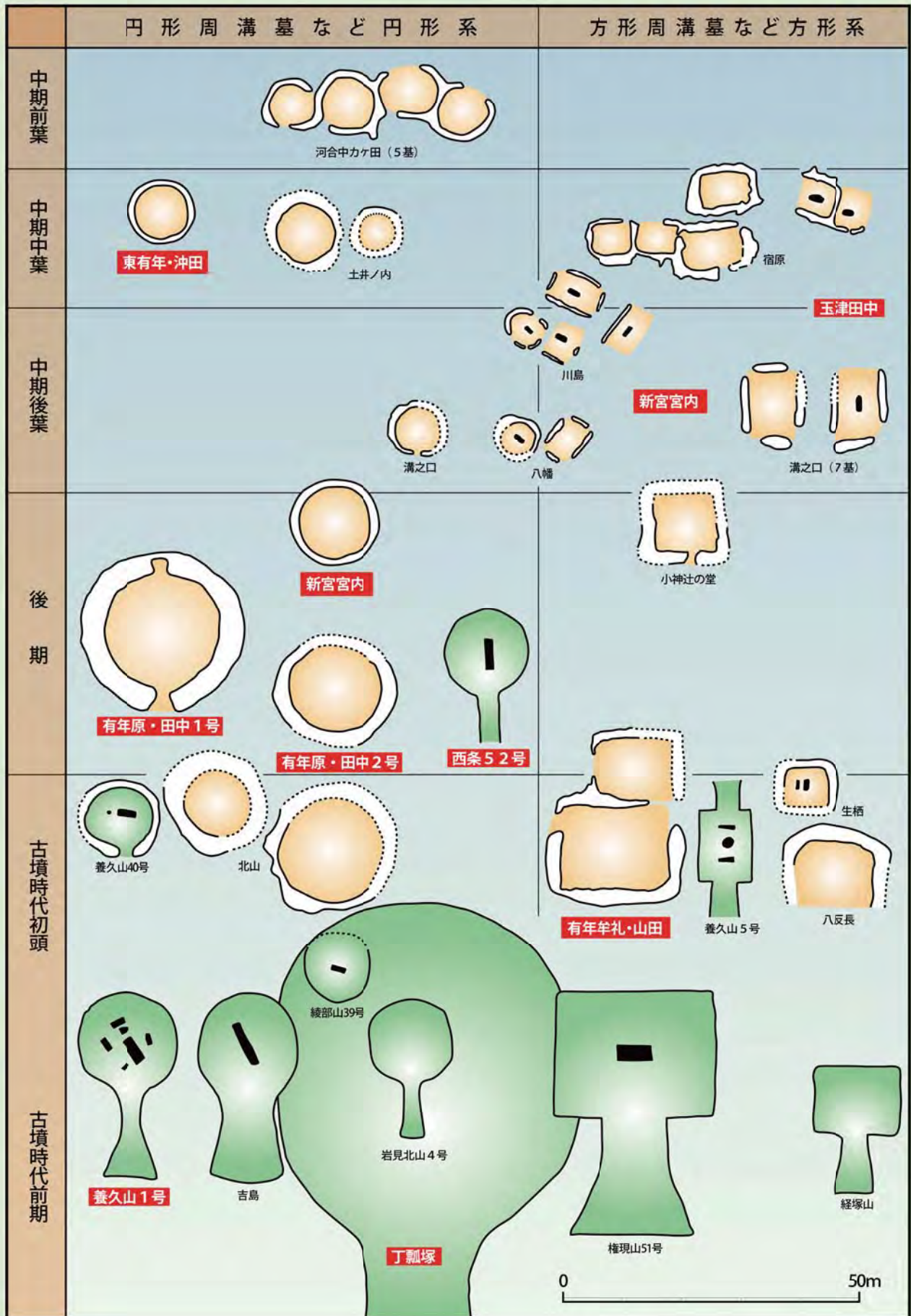
新宮宮内遺跡では、不思議なものがみつかったうにゅ。それがこのせきぞく石鏃（石でできた矢じり）が大量に入った木棺墓。19点という大量の石鏃がみついているうにゅ。この木棺に葬られた人はどんな人なのか、考えてみるうにゅ。

① **戦争や戦いでたくさんの矢を受けた戦士**：本当なら、弥生時代中期の播磨地域では激しい「戦い」があったといえそううにゅ。ただし、実際の戦争や「戦い」では、こんなにたくさんの矢が当たることは有り得ないうにゅ。



② **死刑になった人**：悪いことをした人を死刑にするためにみんなで矢をたくさん打ち込んだのかもしれないうにゅ。

③ **副葬品として一緒に葬られた**：<sup>まよ</sup>魔除けやあの世で使う道具などとして、一緒に埋葬されたのかもしれないうにゅ。

実は弥生時代中期の木棺墓から石鏃が出土することはよくあることうにゅ。中には骨に突き刺さっているものや欠けているものがあるけど、明らかに死んだ後に副葬品として棺に入れられているものもあるうにゅ。状況は複雑うにゅ。どちらにしても、**この時代の播磨に普通ではない何かが起こってる感じはする**うにゅね。考古学では「**社会的緊張**」とかいったりするうにゅ。



※岸本道昭氏作成図を一部改変

-  : 丘陵上にあるもの
-  : 平野にあるもの

播磨地域の周溝墓・墳丘墓・古墳のうつりかわり

## ～ 3. 円形周溝墓と方形周溝墓～

### ⑤ 玉津田中遺跡（神戸市）

玉津田中遺跡では、前期末から弥生時代中期までの**方形周溝墓が約 45 基**、発見されており、**兵庫県内でも最大規模の方形周溝墓群**がみつかっています。

方形周溝墓は隣り合うように密集して造られており、内部からは木棺墓や土坑墓が多くみつかりました。

最大の方形周溝墓（下の写真中央）は長辺が 19m もあり、兵庫県下最大級です。また、方形周溝墓は残存状況が非常に良く、内部に造られた木棺本体が腐らずにそのままみつかったものもあります。



▲ 密集する方形周溝墓群

(兵庫県立考古博物館提供)

方形周溝墓からみつかった木棺 ▶

木棺とそこに葬られた人骨が腐らずに残っていました。



(兵庫県立考古博物館提供)



(兵庫県立考古博物館提供)

▲ 周溝からの遺物出土状況

右手側が方形周溝墓の内部で、2つの木棺の痕跡が見えます。

うにゅちゃんの  
解説!



方形周溝墓の溝の中からは、供えられた土器のほか、溝を掘るときの鍬や鋤、スコップのようなものが出土することがあるうにゅ。

この方形周溝墓では、鋤の先端が溝の底に刺さった状態で出土したうにゅ。

溝を掘ってる途中で折れちゃったうにゅ?



#### ◀ 見つかった平地建物

少し高くなった部分が床、まわりの穴が柱穴です。建物の奥に、完全なかたちの土器がまとまって置かれたままになっていました。

建物は洪水で運ばれた砂によって完全に埋まっており、洪水にあったために土器が置き去りにされていたと考えられています。

(兵庫県立考古博物館提供)

うにゅちゃんの  
ココがすごい！



玉津田中遺跡のすごいところは、方形周溝墓の近くから、**葬儀**をおこなったかもしれない建物がみつかったことうにゅ。

ここに展示した土器は、方形周溝墓の近くにあった「平地建物」という建物のなかにたくさん集められた状態でみつかったうにゅ。

平地建物とは当時一般的だった竪穴建物や高床建物とは違って、地面の高さに床をつくるもので、一般的な住居ではないうにゅ。

この平地建物の中に、土器の**どうぶ**胴部に穴を開けて、わざと使えなくした土器が大量に集めて置いてあったうにゅ。こうした穴をわざと開けて使えなくした土器は、方形周溝墓に供えられた土器に多くみられるもので、この土器も本来は方形周溝墓に供えるために集められた可能性が高いうにゅ。

なので、この場所では方形周溝墓に土器を供える前に、葬儀のような行為をした場所ではないかとされているうにゅ。弥生時代でこうした葬儀に関係する場所が見つかるのはとっても珍しいので、**その重要性から出土遺物は兵庫県指定文化財になっている**うにゅ。

## ～4. 社会の変化と墓～

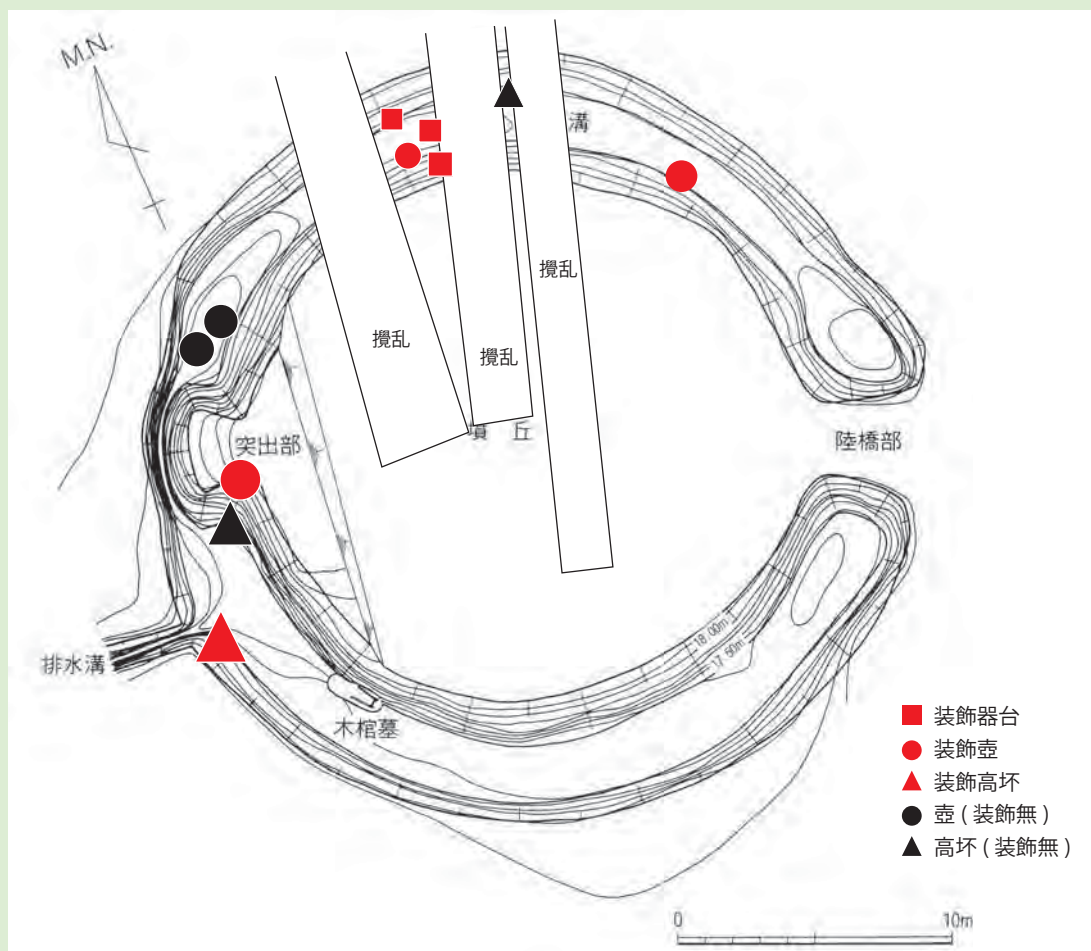
### ⑥<sup>うねはら たなか</sup>有年原・田中遺跡（赤穂市）

有年原・田中遺跡は赤穂市有年原にある遺跡で、弥生時代から古代を中心とする集落遺跡です。この遺跡からは**円形周溝墓が2基みつきり、そのうちの1つは全国的にも極めて珍しい特徴を持っています。**

1号円形周溝墓は弥生時代後期後葉（約1,850年前）に造られたもので、**直径およそ19.5mという非常に大規模なもの**です。周溝墓は前後する時代の竪穴建物と切りあっており、集落の中心部に近い位置に造られています。

主体部（棺）の痕跡やマウンドは後世の耕作で完全に削られて無くなっていましたが、周溝内から木棺墓がみつかっています。

周溝から円形周溝墓に供えられたと考えられる通常の土器のほか、**特殊な装飾を施した土器（装飾壺・装飾器台・装飾高坏）**が出土しています。また、周溝内にはマウンド斜面から滑り落ちたと考えられる石材が多数見つかり、マウンド表面に石材が貼られていたのではないかと考えられています。



▲ 1号円形周溝墓と土器の出土位置

うにゅちゃんの  
解説!



有年原・田中遺跡のすごいところは、その特徴うにゅ!

### ①円形周溝墓に突出部がつく形状

周溝墓に陸橋部りっきょうぶがつくものはよくあるけど、「突出部」とっしゅつぶがつくものは本当に珍しいうにゅ。この「突出部」がとても重要うにゅ。

巨大な古墳に多い「前方後円墳」、いわゆる鍵穴形の墓は、実は丸い墓に四角いでっぱり＝「突出部」そけいがついたものが祖形といわれているうにゅ。つまり、**弥生時代に現れた「円形周溝墓 + 突出部」という形状が、古墳時代になると「前方後円墳」になった**とされているうにゅ。

### ②装飾壺と装飾器台

有年原・田中遺跡の円形周溝墓が造られた時代までは、墓にお供えする土器は特別な土器ではなく、日常で使う普通の土器をお供えしてたうにゅ。ところが、弥生時代後期後葉頃になると、集落では使わないような特別な土器をわざわざ作って、墓にお供えするようになるうにゅ。

その中でも壺とそれを載せる器台はとっても重要だったみたいで、とても大きなものや、細かな装飾を施したものなどが出てくるうにゅ。

有年原・田中遺跡から出土した装飾器台と装飾壺はその代表うにゅ。**墓に専用の土器を供えるという行為は、実は古墳時代にも受け継がれていて、古墳へ供える専用の土器である「埴輪」になると**いわれているうにゅ。

そして一番重要なのは、有年原・田中遺跡では、**後の時代の古墳につながるこの2つの要素が組み合わされて現れている**ことうにゅ。だから、有年原・田中遺跡は、古墳の祖形の1つとして、考古学研究上、とっても重要な遺跡として有名うにゅ!





▲円形周溝墓群 円形周溝墓は2基、みつかっています。



▲1号円形周溝墓の周溝 周溝から土器や石材が大量にみつかっています。



▲1号円形周溝墓の突出部 陸橋部とは違って、外につながっていません。

## ～4. 社会の変化と墓～

さいじょうごじゅうにごう ぼ

### ⑦西条5 2号墓（加古川市）

西条5 2号墓は加古川市西条にあり、西条古墳群とよばれる弥生時代から古墳時代の墳墓群の中にありました。集落から離れた丘陵上に位置しています。

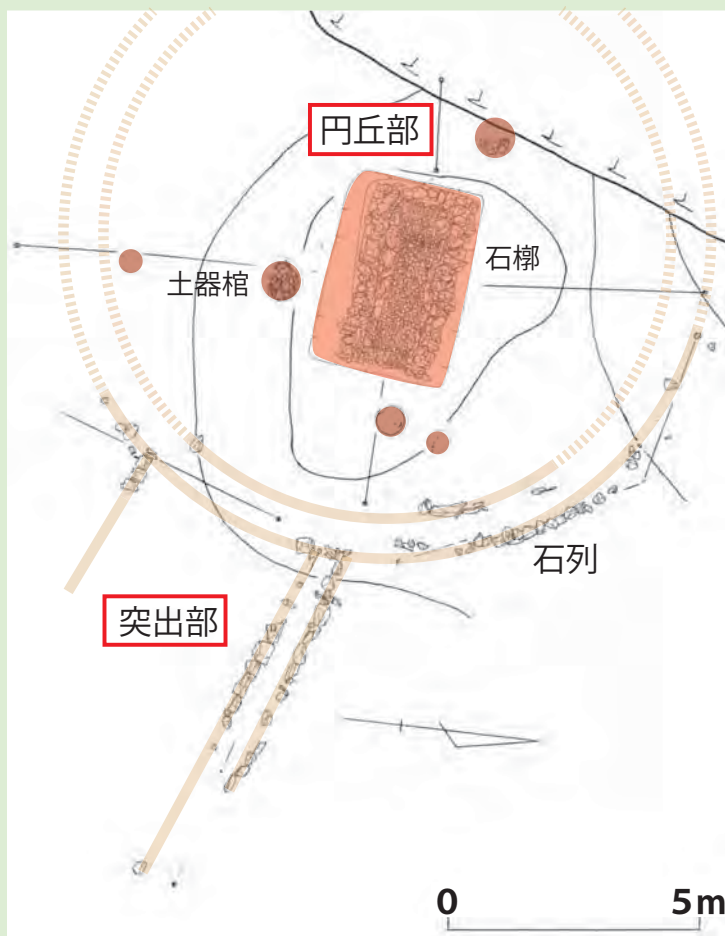
宅地造成によってすでに破壊されてしまいましたが、調査の結果、**全長19m以上の前方後円形の墓**であることが分かっています。墓は直径約11mの円丘部えんきゅうぶに長さ8m以上の突出部がとりつき、周囲には石列が二重に巡っています。

円形部分の中央には、石を積み重ねて壁をつくり、木で蓋をした「**石槨**」せっかく**がみつき**り、石槨内部には鉄剣が1本のみ副葬されていました。石槨の上部には小石が積み上げられており、そこから**粉々に砕かれ、細片になった**「**内行花文鏡**」ないこうかもんきょうの破片や供えられた土器が出土しています。また、周囲には石槨のほかに5基の土器棺もみつかっています。



▲調査風景

(兵庫県立考古博物館提供)



▲平面図

(西条古墳群発掘調査団 2009 を改変)



▲内行花文鏡の出土状況 (兵庫県立考古博物館提供)

粉々にされた破片が散乱した状態で出土しています。  
(赤丸が鏡の破片)



(兵庫県立考古博物館提供)

▲突出部と円丘部の石列

奥側が円丘部（丸い墓の部分）。  
手前は、まっすぐ伸びている突出部。



▲石槨と土器棺 (兵庫県立考古博物館提供)

奥側が石槨。手前の石材がない部分は本来的に石材が無かったとされています。手前が展示している土器棺。

うにゅちゃんの  
ココがすごい！



西条52号墓のすごいところは、たくさんあるうにゅ！

ポイントは「石槨」と「内行花文鏡」、そして「突出部」うにゅ。

西条52号墓の「石槨」は、穴を掘って石を積み上げて壁と空間を造って、人を葬った後、木の板で蓋をしたものうにゅ。よく似たものは岡山県倉敷市の楯築墳丘墓たてつきや黒宮大塚墳丘墓くろみやおおつかなどでみられるので、その辺からの影響かもしれないうにゅね。岡山県のものともよく似ている土器があるし。この「石槨」がしだいに大型化していったものが、古墳の「竪穴式石室」ではないか？といわれているうにゅ。

「内行花文鏡」はもともと中国大陸で作られた青銅製の鏡うにゅ。中国大陸の国と交流したり、仲が良くないともらえなかったので、弥生時代には非常に貴重なもの、また権威の象徴けんい しょうちょうでもあったうにゅ。北部九州では弥生時代に中国の鏡はたくさん出るんだけど、それ以外の地域ではとっても珍しいうにゅ。鏡を砕いて墓に供えるという風習くだは北部九州などにみられるので、内行花文鏡という貴重な鏡を入手できたこともあわせて考えると、影響があるかもしれないうにゅね。

最後に「突出部」うにゅ。有年原・田中遺跡のところでもいったように、「円形周溝（墳丘）墓 + 突出部」が、古墳時代には「前方後円墳」になったと考えられるうにゅ。

西条52号墓も、一番重要なのはこういった「古墳」のもとになる複数の要素が1つの墓に組み合わされて現れてきているところうにゅ。

造られた時代についても、以前は弥生時代終末期（庄内式）の墓と考えられていたけど、近年の研究で弥生時代後期後葉、有年原・田中遺跡に近い段階の墓であるという考えも出されているうにゅ。

今後ますます研究上、重要になってくる遺跡うにゅね！

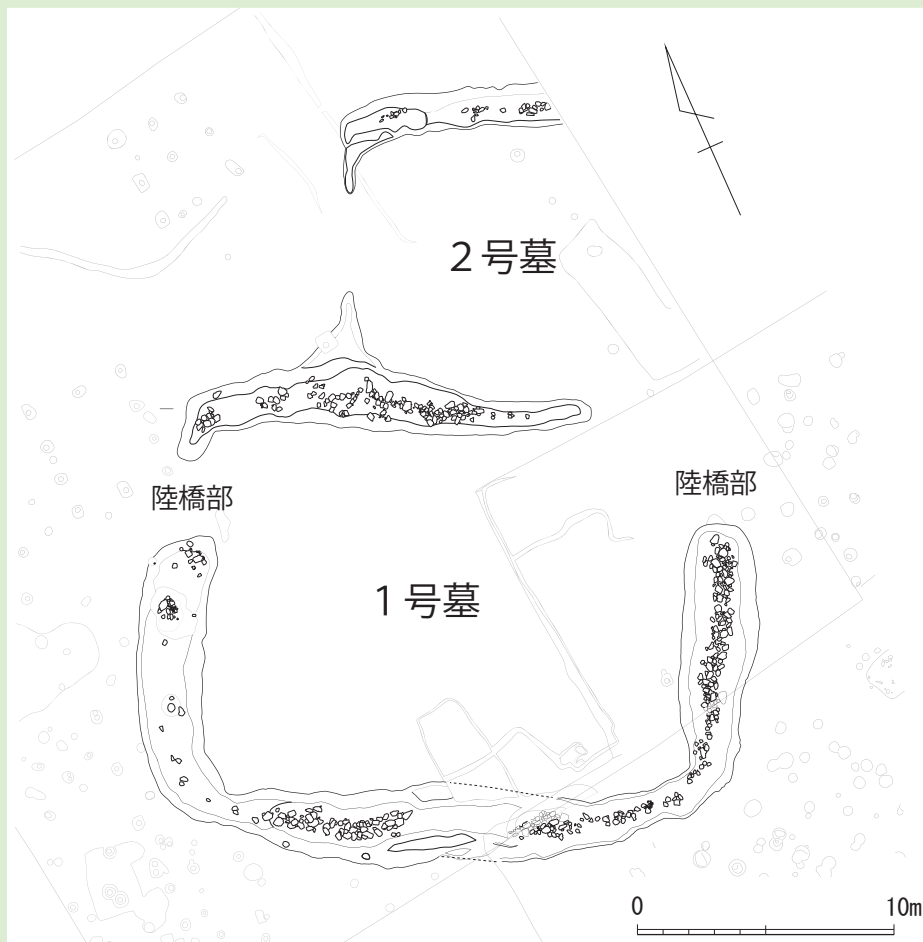
## ～5. 格差の広がる墓～

### ⑧<sup>うねむれ やまだ</sup>有年牟礼・山田遺跡（赤穂市）

有年牟礼・山田遺跡は、赤穂市有年牟礼にある遺跡です。遺跡は飛鳥時代から平安時代が中心のものですが、**弥生時代終末期（約 1,800 年前）の方形周溝墓**がみつかりました。周囲に同じ時代の集落はみつかっておらず、集落から離れた場所に築かれていたようです。

方形周溝墓は2基みつかっており、**1号墓は一辺が 20mという非常に大型のもので、兵庫県内でも最大級のもので**す。また、**方形周溝墓は赤穂市内ではこの遺跡でしかみつかっていません**。

棺やマウンドは後の時代に完全に削られており、残っていませんでしたが、周溝の中から方形周溝墓に供えられた土器と、マウンドの斜面に貼り付けられていた石材が出土しています。出土した土器には一般的なもののほか、有年原・田中遺跡から出土したものと非常によく似た**大型装飾器台、香川県や岡山県から持ち込まれた土器が出土**しています。



▲方形周溝墓群

うにゅちゃんの  
解説!



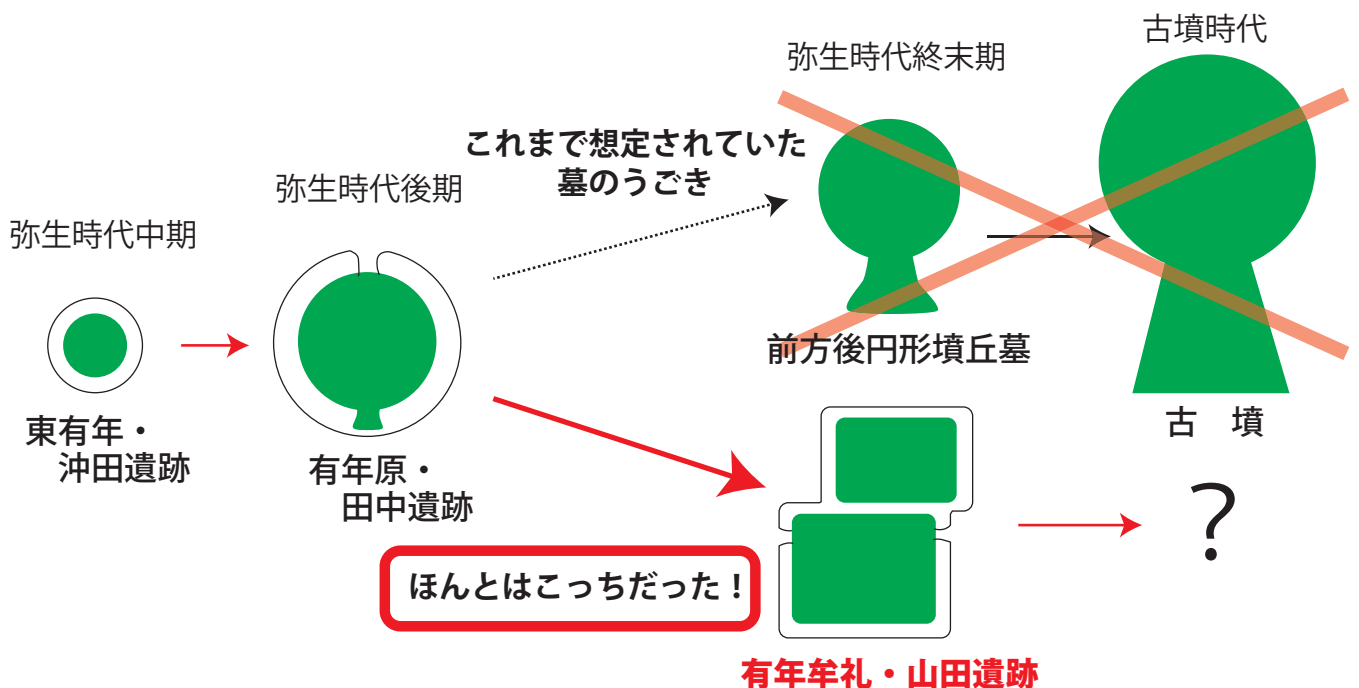
有年牟礼・山田遺跡のすごいところは、**赤穂市で方形周溝墓が見つかった**ことにゅ。これまでの展示でいったとおり、赤穂市は播磨の西、瀬戸内地方の影響が強く、弥生時代中期の東有年・沖田遺跡、弥生時代後期の有年原・田中遺跡というふうに、円形周溝墓を造る地域と考えられていたにゅ。

ところが、弥生時代終末期に、突然、近畿地方と同じような有年牟礼・山田遺跡の方形周溝墓が造られるにゅ。

これまで有年原・田中遺跡のような古墳の祖形になるような墓がそのまま発達して古墳時代の前方後円墳になる、とも考えられていたんだけど、赤穂市ではそうではなく、**古墳の祖形になるような墓が造られたあとに、逆に弥生時代のような方形周溝墓へと変わるという動きもあることがわかった**にゅ。

**古墳の祖形になるような墓は播磨にたくさんあるけれど、それがそのまま古墳時代の「前方後円墳」になるわけではない**みたいいうにゅね。

考古学で長年研究されてきた謎である、「古墳や前方後円墳はなぜ、どのようにできあがったのか?」というテーマを考えるうえでとても重要な遺跡にゅ!





▲香川県から持ち込まれた土器 胴部の直径が 55 cmもある大型のものです。  
※保存修理中のため、出品していません。



▲大型装飾器台 備前から西播磨で特徴的にみられるもので、墓へ供える専用の土器です。  
手前が有年牟礼・山田遺跡出土。奥が有年原・田中遺跡出土。

## ～ 5. 格差の広がる墓～

### ⑨和田神社遺跡（三木市）

和田神社遺跡は三木市別所町にあり、平野を見下ろす丘陵の斜面にある遺跡で、**弥生時代終末期から古墳時代初頭の土器棺墓群**がみつかりました。

土器棺墓は 15 基みつっていますが、ほとんどが周溝やマウンドをもっていない。ただし、5 基の土器棺が密集してみつかった部分は、方形に溝が巡り、**方形周溝（墳丘）墓である可能性が高い**ようです。

棺に使用された土器のなかには、地元で作られた土器のほか、**香川県から持ち込まれたと考えられる巨大な土器**があります。



▲遺跡の全景

(兵庫県立考古博物館提供)



▲土器棺の出土状況

(兵庫県立考古博物館提供)



(兵庫県立考古博物館提供)





▲土器棺だけが葬られた墓

(兵庫県立考古博物館提供)

うにゅちゃんの  
ココがすごい！



和田神社遺跡のすごいところは、**1つの周溝（墳丘）墓に土器棺しか葬られていない**ところうにゅ。

ふつう、弥生時代の周溝墓や墳丘墓の内部には、木棺や石槨、大きな土坑墓と一緒に、土器棺がある場合が多いうにゅ。つまり、土器棺だけのために周溝墓を造ることはほとんどないうにゅ。土器棺には子どもが葬られているので、**周溝墓は子どものために造られるものではない**ことが原則といえるうにゅね。

ところが**和田神社遺跡では土器棺のため＝特別な子どものためだけに周溝墓が造られて、周囲の土器棺とも区別されている**うにゅ。このことから、弥生時代終末期には子どもにまで格差がはっきりと表れた時代であったことがわかるうにゅ。また、**有力者や権力者の子どもは生まれながらにして特別な存在であった＝権力や身分が世襲される時代のはじまり、と捉える考え方もある**うにゅ。

当時の社会を考えるうえで、とっても重要な遺跡うにゅよ！

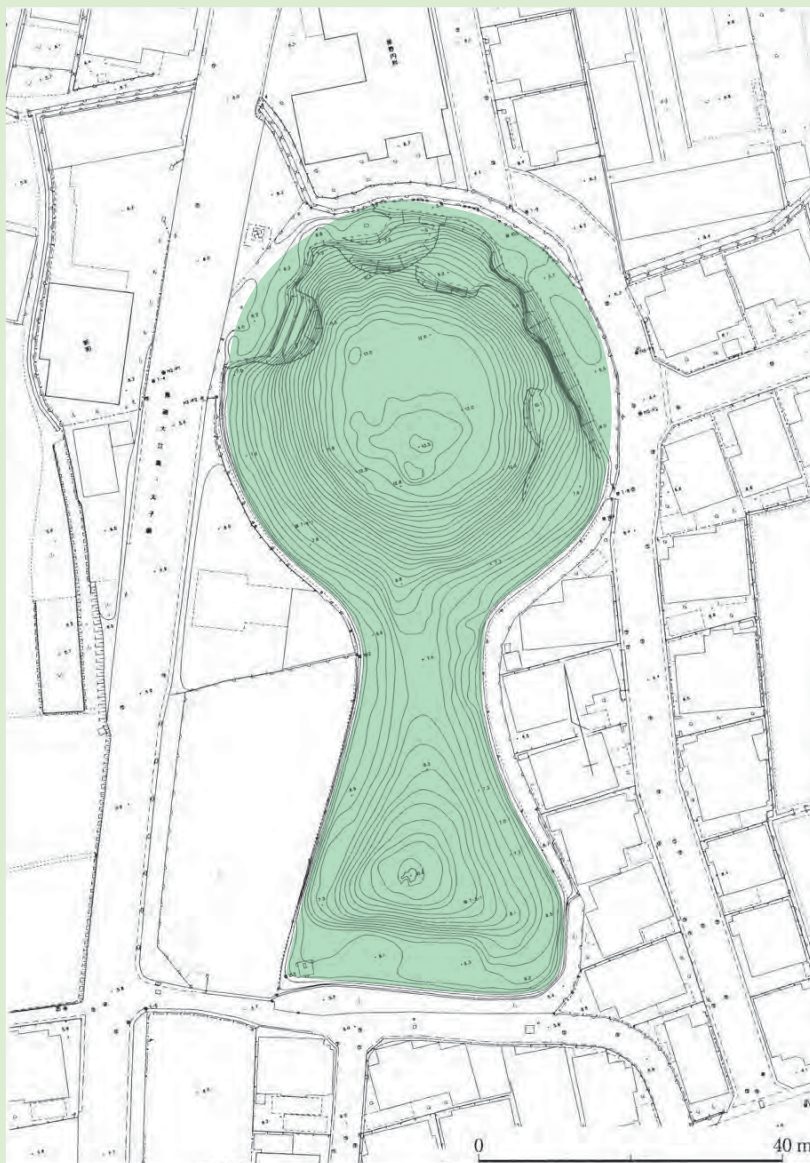
## ～6.「古墳」の出現～

よるひさごづか

### ⑩ 丁瓢塚古墳（姫路市）

丁瓢塚古墳は姫路市勝原区丁にある、**全長 105mという巨大な前方後円墳**です。発掘調査は行われていませんが、墳丘の上から土器が採集されており、土器の年代から、**播磨で最初に築かれた 100mを超える巨大前方後円墳**であるといわれています。

また、前方部が三味線のバチ状に開く形状は奈良県箸墓古墳など、最初期の前方後円墳の特徴で、このことから最初期の前方後円墳ではないかと考えられています。



▲古墳の形状

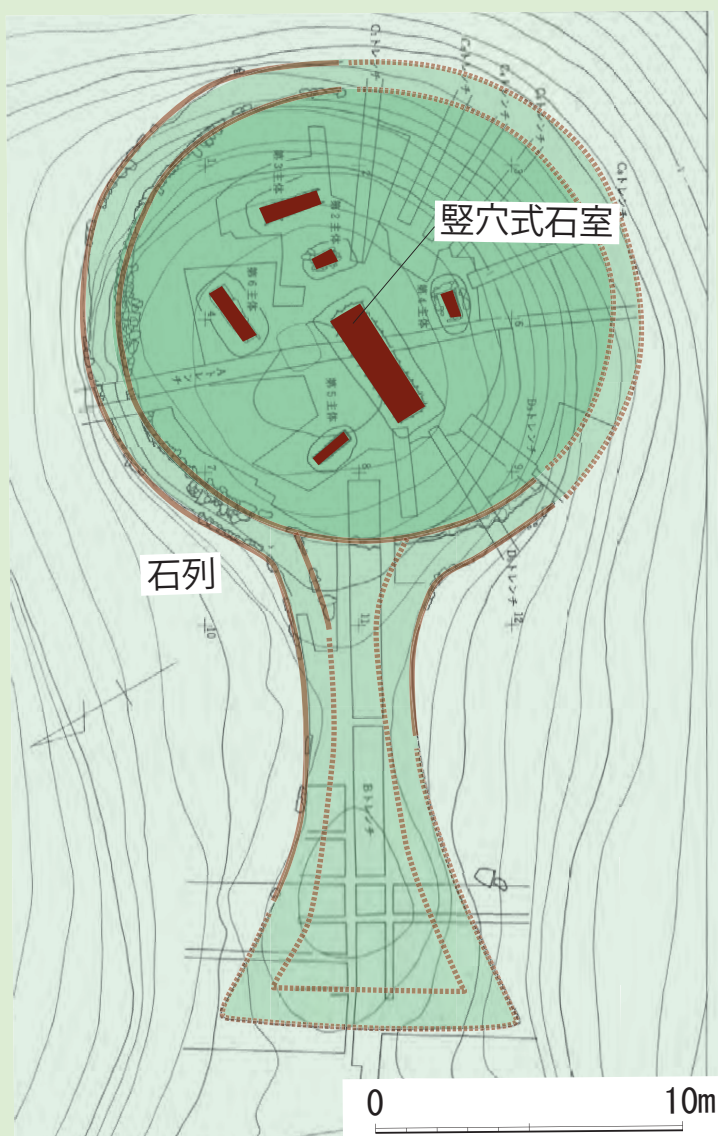
## ～6. 「古墳」の出現～

### ⑪養久山1号墳（たつの市）

養久山墳墓群はたつの市揖保川町養久山にある遺跡で、「養久山」と呼ばれる丘陵の上に、弥生時代から古墳時代までの墳墓が造られています。

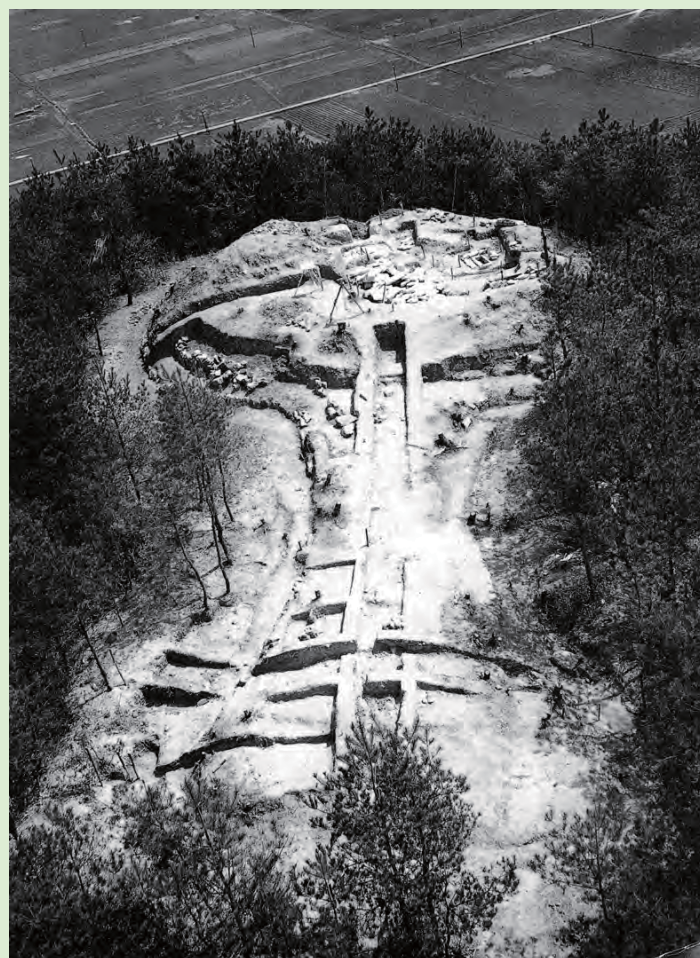
**養久山1号墳は全長32mの前方後円墳**です。後円部の中央には**竪穴式石室（石槨）**が築かれ、**中心的な埋葬となっています。ここから、鉄剣・鉄鏃・ヤリガンナ・青銅鏡**が出土しました。

また、竪穴式石室のほかにも板石を組み合わせてつくった箱式石棺が5基、作られており、計6つの埋葬施設を持っています。



▲古墳の形状

(揖保川町教委 1985 を改変)



▲古墳の全景

(揖保川町教委 1985 より)

## ～6. 「古墳」の出現～

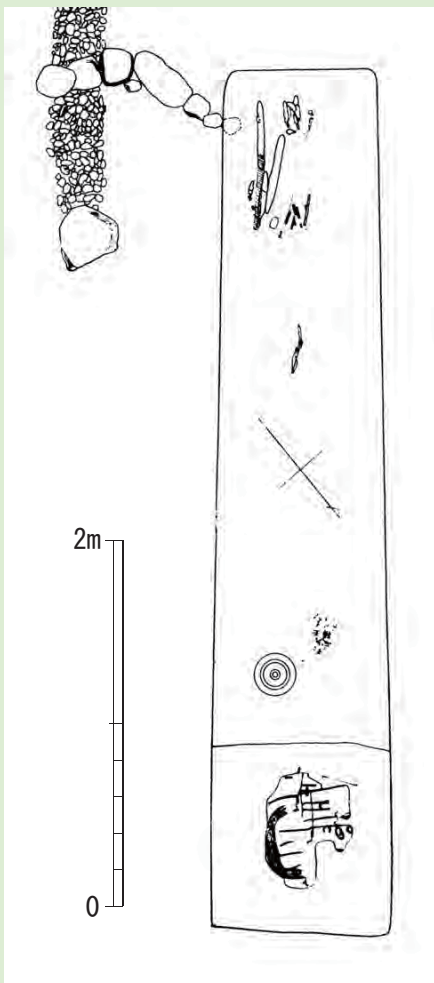
にし の やま

### ⑫西野山3号墳（上郡町）

西野山古墳群は赤穂郡上郡町西野山にある古墳群で、丘陵の上に、弥生時代から古墳時代までの墳墓群が造られています。

その中でも、**西野山3号墳は盟主的な古墳**です。正確な古墳の形状や大きさは分かっていませんが、発掘調査の結果、**古墳に築かれた粘土槨（木の棺を粘土でくるんで埋葬する墓）**から、**三角縁神獣鏡、鉄剣・鉄鏃・ヤリガンナなどの多くの鉄器、銅鏃、勾玉や管玉などの玉類、有機質製の短甲**などが出土しました。

埋葬施設は1つだけといわれており、古墳時代前期の典型的な古墳といえ、古墳時代後期後半（約1700年前）に千種川流域を治めた有力者の墓といえます。



▲調査図面



▲調査された粘土槨の全景

## ～6. まとめ おわりに～

このように、弥生時代に出現した方形周溝墓や円形周溝墓は、当時の風習や社会の違いに左右され、時期ごとに大きく変化し、弥生時代を考えるうえで欠かせないものです。

特に**播磨は方形周溝墓と円形周溝墓が共存する特徴的な地域であると同時に、「古墳」の祖形ではないかとされる弥生時代の墓が多く存在しており、弥生時代の墓の変化＝社会の変化が非常によく分かる地域**です。

今後も研究が行われ、新たな弥生時代の社会の姿が明らかになっていくことでしょう。

本展を開催するにあたり、以下の方々にご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。

(機関・団体) 加古川市西条自治会・たつの市教育委員会・

兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館

(個人) 大久保徹也・岸本一宏・岸本道昭・森岡秀人・山上雅弘・若林邦彦

(敬称略・五十音順)

ご観覧ありがとうございました！  
またのお越しをおまちしています！

